

Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

106

2021

春季号



8つのアート 1つのハート



1921-創設100周年-2021
Nihon University College of Art

N  **U**
Nihon University College of Art
Art

日本大学芸術学部

CONTENTS

100年の鼎談	03
江古田会ニュース	
岩手江古田会・石川江古田会	06
新潟江古田会・愛知江古田会	07
台湾江古田会・長野江古田会	08
秋田江古田会・青森江古田会	09
第15回日藝賞決定	10
皆さん今日は！	11
学科ニュース	
写真学科・映画学科	13
美術学科・音楽学科	14
文芸学科・演劇学科	15
放送学科・デザイン学科	16
学部の優秀者	17
校友会からのお知らせ	18
編集後記	18

■総会 デザイン

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、グラフィックデザイン全般(ポスター、パンフレット、ロゴ作成等)を担う。03-5999-8611

(株)スピーチ・パルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。絵本、コミックほか書籍の編集・制作、各種イベントの企画構成・設営等も行っている。03-5999-6911

※石ノ森章太郎ふるさと記念館(宮城県登米市)にて企画展開催予定。前期:「矢口高雄追悼展」/後期:「石ノ森章太郎 矢口高雄 二人展」※会期はふるさと記念館のHPをご参照ください。

※横手市増田まんが美術館の内装リニューアルにおいて、「第53回日本サインデザイン賞銅賞」を受賞致しました。

Email:info@my1973.com

日藝 総会の

令和3年 6月1日
[2021]

会場

桜門会館(日本)

住所:東京都千代田区五番町2-6

懇親会はありません。

突然変更をする場合がございます。
校友会ホームページ、twitterでご確認
校友会事務局に電話で確認を
お願いいたします。

ご出席いただく場合に ご注意いただきたいこと

- ◆感染による影響が大きいとされるご高齢の方、基礎疾患のある方、体調のすぐれない方は、慎重なご判断をお願いいたします。
- ◆必ずマスク着用・建物入口で手指の消毒、体温の測定をお願いいたします。

校友会 ご案内

午後
9日(土) 2時から

大学校友会本部) 4F

電話: 03-5275-8143

議題

1. 会務報告
2. 会計報告
3. 予算審議
4. 推薦校友
5. その他

くださるか、



◆当日発熱・体調不良の方は入定をお断りすることがあります。

◆校友会員の皆様の安全確保を最優先といたしたく、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和元年度校友会総会

令和元年度日本大学芸術学部校友会総会が令和2年11月28日(土) 午後5時20分より開催された。新型コロナの影響で6月から11月に延期となり、会場も江古田校舎からホテルメトロポリタンへ変更、感染拡大防止を徹底しての開催となった。

総会出席者41名。委任状1355通。会務報告のあと決算報告、監査報告、予算案審議へと進み、いずれも拍手を持って承認された。今年は役員改選の年となり、田上会長の続投が拍手をもって承認された。コロナ禍のため、総会後の懇親会は中止となった。



校友会新常任幹事名簿

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
会長	田上 竣詞	放53	役職 文芸	生沼 剛	S41
副会長	松島 哲也	映57		河野 直樹	S50
副会長	高橋 則英	写52		大塚 実	S53
副会長	田中 光子	写53		青木 敬士	H4
副会長	原 一平	演48	演劇	三原 治	S54
副会長	千北 正	デ52		喜多村 淳子	H2
旧制	桜井 理治夫	専25		木村 光太郎	H13
写真	原 直久	S43		山口 英峰	H13
	鯉江 充	S54		大河内 薫	H17
	西垣 仁美	S58	放送	森澤 広明	S54
	服部 一人	S58		島岡 唯信	S63
映画	山田 顕喜	S38		安部 裕	H2
	浦井 孝行	S45		茅原 良平	H13
	宮澤 誠一	S46	デザイン	荒井 弘美	S50
	山本 英史	S57		片岡 義和	S52
	鳥山 正晴	S59		長瀬 浩明	S63
美術	小橋 克史	H1		長坂 淳	H9
	飯田 竜太	H15			
	柴田 直起	H30			
音楽	大槻 秀一	S53			
	西尾 敦子	H1			
	川上 央	H7			
	竹田 香子	H19			

全新役員の名簿は校友会ホームページをご覧ください。

エキサイティングな時代！ 一番記憶にある出来事はやはり日米闘争。 そして、実学の中に日藝の本質を見た。

日本大学名誉教授（元日本大学芸術学部長）八木 信忠

日本大学芸術学部長 木村 政司

日本大学芸術学部 校友会長 田上 峻詞

田上校友会長（以下、田上）： 本日はお忙しい中ありがとうございます。日本大学芸術学部 100 周年記念特別企画ということで、木村学部長と八木先生をお招きした鼎談を企画いたしました。木村学部長（以下、学部長） 八木元学部長（以下、八木先生） 本日は宜しくお願ひします。

まず初めに、八木先生のプロフィールを簡単にご紹介させていただきます。

八木先生は、昭和 10 年 5 月 31 日にお生まれになり、昭和 29 年に東京都立大学付属高等学校を卒業。昭和 31 年 4 月日本大学芸術学部映画学科に入学し、昭和 35 年 3 月卒業。

同年 4 月より日本大学芸術学部任教員として勤務。以後、助手から専任講師、助教授を経て昭和 55 年 8 月に教授に就任。平成 3 年本学部学部長に就任、平成 12 年 9 月に退任、その間日本大学副総長を歴任されています。

八木先生： はい、そうですね。実は日藝入学までに 2 年浪人しています。

田上： 2 年浪人されたんですか？

八木先生： 自分自身としては理系に行こうか文系に行こうか迷っていた。中学校時代から電気が好きでして、アンプとかラジオとか作っていた。家の隣に新東

宝の録音技師が住んでいて、その方からラジオの作り方を教えてもらっていてね、秋葉原、当時は神田ですね。露天商が一杯並んでいて、そこで部品をそろえラジオを作っていたんですよ。

ラジオ少年だったんですね。そのきっかけとなったのは、確か小学校 5 年生でしたか、家の隣にヤミ料亭があり（終戦直後料亭が無い時代）、そこに当時、喜劇界のスーパースター、エノケン（榎本健一）が遊びに来ていて、仲間と垣根越しに見ていたら、「君たちいいものを見せてやるよ」と云われ、我々に録音機を見せてくれ、その場で録音して聞かせてくれたんです。私は録音機を見たことがなかった。そのとき生まれて初めて録音機にお目にかかったというわけです。そんなことが影響したんですかね。子供ながらに興味を持ちました。

高校時代に入ると早速放送研究会に入部しました。しかし、放送するにも放送機器が無いんですよ。そこで校長から放送機器を用意できるなら放送してもいいよ、お金は出すからと云われたので放送機器を自分たちで作り、校内放送とか放送劇をやっていました。

不良校高校生でしてね、その当時、中

学の友達のおヤジが選挙に出ることになり、選挙カーの拡声器、アンプが用意できないかと頼まれ、それを作って 2 週間学校さぼって選挙カーに乗っていました。

そんなことばかりしていたので、受験勉強はこれっぽっちもしてなかったんですよ。一年は浪人すると思っていました。しかも浪人してもなお、止まない。

1 浪の時に金沢美術大学に進学した友人に頼まれて書いた作品が、思いもかけず北陸三県の大学を対象とした NHK コンクールで堂々最優秀賞を受賞して、初めて自分の作品がラジオドラマとして公共の電波に乗りました。

学部長： デビュー作ですね。

八木先生： はい！デビュー作です。そちらの道もあるな一と思い、電気系に行くかどうか迷っているうちに、結果 2 年浪人することになりました。

2 年浪人して最後に日藝を受験したら受かったちゃいまして、入学することになりました。

田上： 好きなことをしていたら 2 年浪人してしまい、結果その回り道が人生を決めていたんですよ。

八木先生： 今思うとそうかもしれせんね。今の日藝でしたら入学できなかった

たでしょうね。どうして受かったか本人が分からない(笑)。入学してすぐに放送研究会に所属しました。

そこで、今度は『青春の曲がり角』と云う作品に出会い、録音整音を担当しましてね、その作品もコンテストで受賞したんです。確か主演女優は山本嘉子さんでしたかね。

田上： その話ですが、長野江古田会の酒井さんという方がいらっちゃって、その方から昭和31年の作品『青春の曲がり角』の台本を預かっていますが、八木先生に渡してくださいと昨年お願いされたのですが、このことですか？(台本を八木先生に)

八木先生： そうそれですよ。懐かしいな～！よく残っていましたね。ありがとうございます。私がミキサーを担当したんです。アナウンサーは短波放送のアナウンサーになった近藤清さん、制作は酒井さんでした。放送研究会ではこんなことをずっとやっていました。

学校の授業では、「アンプが自分で組み立てられる」、「電気のことをわかっている」というので卒業制作や実習の録音は全て僕がやり、その他の技術コースの学生は皆撮影を担当していました。この時に初めてフィルム録音を勉強しました。

恩師は渡辺俊平先生です。磁気テープは何度も上書きができるけども、映画フィルムは高価で一発録りで、上書きできないものですから、録音する時は大いに緊張しました。本当に実習で鍛えられました。

卒業の時に井上俊彦教授から、葵スタジオ(現アオイスタジオ)への就職を勧められましたが、職場訪問してみると、働いている方々の様子を見て大変そうだったので、これは自分には務まらないと考え、学校に残りました。

それともう一つ理由があって、学校で制作もできると思ったんです。

当時の日藝は商業映画の制作プロダクションもやっていたんです。主に役所から頼まれたものが多かったのですが、その

中で製作された『夜間中学』という作品は、僕自身は関わっておりませんが、スタッフ、キャスト、制作全てオール日藝。(事務局注：2017年にKADOKAWA／角川書店がDVD化、発売)

確か、この映画は校友会が作ったんですよ。お金も校友会が出したはずですよ。

監督はゴジラシリーズを監督された本多猪四郎さん(日藝映画学科一期生)、当時すでに大スターだった木暮実千代さんはじめ小林桂樹さん、そうそうたるスターが出演していました。

学部長： 産学連携は昔から取り組んできたんですね。

八木先生： はい、学部と校友会の自主制作です。確か学部創設35周年にあたる年の作品で、学部と校友会が募金で資金を集めて製作したはずですよ。

田上： その頃の校友会はパワーがあったんですね。いまの校友会も大いに頑張らないといけない。

八木先生： 当時は映画会社が俳優を専属で抱えていまして、抱え込んでいた俳優を貸し借りするのは原則禁止制度がありました。日藝が映画を作るとなるとこの五社協定が厄介でしたが、校友会の誰かと渡辺先生が大映の永田雅一さんをお願いをして、大映での配給が決まり、この映画製作が実現しました。俳優はオールキャスト日藝出身。勿論、監督、制作スタッフも全て日藝。映画会社に専属契約していなかった宇野重吉さんはともかく、東宝の小林桂樹さんが大映の映画に出演するなんてとんでもない話なんです！普通ならそんな五社横断の俳優陣で映画を作ることなんてできないですから。

学部長： 日藝と校友会が中心になっていたからこそできた作品なんですね。

田上： 初めてお聞きしました。学部長ご存じでしたか？

学部長： 知らなかったなあ～。今で云うコラボレーションですね。

八木先生： それで、放送学科ができた時に行くかい？という話を頂いたのです

が、自分の好きなことができる映画学科の方が居心地良かったし、好きな作品を作りたかったものですから、そのまま映画学科に腰を据えていました。

田上： 先生の時代の映画づくりや映画関係者のお話を伺っていると、「日藝」というバリューが、そこにあったように感じます。

日藝に著名な方が集まったのは、なぜだと思いますか？

大正10年に法文学部に美学科が誕生してから20年ほどの間で、次々に映画界に人材を輩出する存在になった理由を、魅力を学ぶことで次の日藝が目指すべき道も見えるかもしれないのでお聞かせ下さい。

八木先生： 松原寛さんが入ってこれた時代に、「哲学的な美学や文学ではなく、実学をやらなきゃダメだ」と言って実習を取り入れ始めたんです。

それがきっかけで神田三崎町の法文学部から追い出され、神田鈴木町、本郷金助町へ移転して実習が整備されたんです。追い出された理由として、一説には、上の階で欽定憲法(大日本帝国憲法)の授業をしていると、下から日本舞踊の三味線の音が聞こえてくる。

憲法学の先生が「陛下から賜った憲法の授業をしているというのに、遊里の音楽を掛けている。実にけしからん。」と美学科を追い出したという話があります。当時の逸話には真偽不明のものを含めて、色々伝わってます。

話を戻しますと、大学で実学をやるということが当時の文部省の指針の中には無く、難しかったんですよ。松原先生が黒板に書かれた理論、知識を学ぶのではなく、芸術は実技、創作を通じて高められるべきという考えを実践され、それが芸術を目指す学生にとって魅力的に感じられたんじゃないでしょうか？

学部長： 時代とタイミングが日藝に集まってきた、集まる場所が日藝しかなかったんですよ。

田上： 八木先生が入学された昭和30年

初期、日藝はどんな学校だった？

八木先生： 1学科200人ほどいましたが、半年で半分の学生が中退してしまいます。最初は教室に入りきれないほどで、早く行かないと席がないという状況でしたが、「途中から減るから問題ない」という先生の発言をよく覚えています（笑）。

田上： 多士済々というか、色んな学生が居た時代ですね。思想にしても、学ぶ背景にしても。江古田の自由を謳歌していた時代ですね。

八木先生： 一番衝撃だったのが、日大闘争です。

日大闘争が起きた時に僕は専任講師をやっていて、団体交渉やバリケード封鎖を経験しましてね。壊されそうな高価な機材を持って自宅に逃げたこともあります。

当時学校の近くにあったモンブランというお店の2階を借りたり、また自宅にもミニ研究室を作りました。最後に学内に機動隊を入れると云うことになり、キャンパスに陣取る学生に退去命令を出すために、車の上にスピーカーをつけ、後ろに渡辺学部長を乗せて“退去しろ”と云いながらグルグルとキャンパスの外の道を回ったこともありました。

それでも逃げずに残っているのは、他所から来た幹部ではなく下々の者だけ。機動隊が催涙ガスを打ち込んだりして本当にすごかったですよ。紛争が終わった後、仲の良かった学生が急にそよそよしくなったり、その逆もありと様々な人間模様を見ました。学生の様子、校内の空気が明らかに変わりましたね。

田上： 日大闘争、それはある意味とんでもない事件であり、また学生時代の思い出のドキュメント、とんでもない非日常の出来事だったと思います。

日藝の歩みや歴史的背景が感じられる体験談、とても貴重なお話でした。

さて最後に伺いますが、先生は何かやり残したことはございませんか？

そして、今の日藝をどう思われますか？

日藝生に期待することは？

八木先生： やり残したことはいっぱいありますよ！今の日藝はね、一言でいうと“いい学校になってしまった”と思います。もちろん色々な意味がありますが、ある程度勉強しないと入れない学校になってしまったことは事実かなと。本当に芸術をやりたい人が、例えば当時の進路に迷っていた僕だったら、今の日藝には入れないな、一次試験で落とされていると思います。

学生たちには、「やりたいことがあるから入学した」という意思を強く持ってほしいですね。

今の日藝は、偏差値が上がり良い評価を得ているのだけでも、「日藝=いい学校」というのがゴールになってほしくないです。日藝に入るための勉強ではなく、映画を作るなり、絵を描くなり、それに一生懸命、情熱を燃やして取り組んでほしい。

一世代前と比べると学生がお利口になってしまったように感じます。もっと“バカ”になってもいいのではないのでしょうか。猪突猛進に取り組むとかね。あいつに聞けば何でも分かるとか、3日寝なくても平気で打ち込めるとか、そういったのめりこむものを持ってほしいです。

そういう学生が少なくなってきている感がありますね。

学部長： 目的があるのではなく「何か見つけたい」という思いが強いので、何も見つからないと挫折してしまう。自らの好奇心に、がむしゃらにもがき続けることを諦めなければ、目標は向こうからやってくるのですがね。将来の選択肢が多過ぎるのでしょうか。

具体的なことはまだ言えないですが、大学という学びの場が、これから進化します。学生たちが学び、創作する過程で、多様な専門領域の先生たちが指導する。学際を超えて、この先生から学びたいという学生の志をサポートできる環境があることが大切ですよ。大学ってそもそもそういう場であったはず。何かに

没頭することができる場で、ひとり一人のマインドとスキルに栄養を提供できれば、学生は勝手に進化しますよ。

あとは、八木先生の映画製作のお話にもあったように、チームコミュニケーションづくり。人間同士の配慮や勘を身につけることはとても大切です。

対面でもオンラインでも、人間同士のコミュニケーションが希薄だとトラブルになります。オンラインベースのチームワークやコミュニケーションをいかに活かすか、粘り強く取組み、時代を読み解き、未来に生き抜く力を身に付けることが試されているように思います。

田上： ネット社会の弊害かもね。今は人に聞かなくてもスマホで検索できるし、ヒトとの関わりが薄くなってきていますからディープには付き合えない時代ですかね。

超アナログ時代、先輩たちが仲間と世代を超えて、立場を超えて、試行錯誤しながら制作した「夜間中学」、皆さんの意識が一つになり、目的に向かった。それまでのプロセスを考えるとエキサイティングだと思いますよね。

是非観てみたいと思わずにいられません。まさに学部と校友の力を結集した作品です。そうした校友のつながりを活用することで、いまの時代であっても社会にもっと日藝発のメッセージを伝えたり、寄与できますね。

学部長： 校友会がもっともっと何かを発信しないと現役の学生たちの感動を得られないですね。まさに校友会、頑張れですよ。

田上： 校友会への叱咤激励を頂いたところで、本日の鼎談を終了したいと思います。

八木先生、木村学部長 本日はご多忙の中、貴重なお話をいただきありがとうございました。

まとめ 田上竣詞
写真撮影 重松 駿

おらが町の蕎麦？

岩手江古田会長の鈴木は、岩手県の南部、一関市に住んでいます。一関市は岩手県の南の玄関口にあたり、世界文化遺産「平泉」を訪れる時は、この一関で新幹線を降りることになります（ただし、市の名前は「一関」でも、駅の名前は「一ノ関」ですのでご注意ください）。かの松尾芭蕉も、『奥の細道』太平洋側最終目的地である平泉に詣でた際に、この一関で宿をとっております。

今回はその一関の名物の蕎麦（？）をご紹介します。東北で蕎麦と言えば、まず山形県です。では、なぜわざわざ一関の蕎麦屋を紹介するかといいますと、蕎麦の定義、一般的イメージとは、ちと趣が違う蕎麦だからであります。

そのお店の名前は「青葉直利庵」といいます。場所は、一関市青葉2丁目、一関市役所の近くです。



写真がその蕎麦です。多くの一関市民が支持するソールフードです。写真は「大天もり」、盛り上がった蕎麦の量にご注目。来店する男ども（あえてこう書きます）のほとんどが、この大盛りに挑戦します。本文のタイトルに「？」をつけたのは、この蕎麦の太さにあります。こちらの蕎麦の太さは、うどんの太さに匹敵します。通常の蕎麦の概念で食べると大変なことになります。まず、太いだけでなく長いので、箸を持った手を頭上高く持ち上げねばなりません。次に、食べる麺を持ち上げると竹すのこに残った麺が「土砂崩れ」を起こします。つまり、きれいに食べることを拒否する麺でもあるのです。しかし、そんな些末なことに構うことなく、紅葉おろし（わさびではない）を投入した甘辛のつゆ（これもくせになります）につけ、大胆に啜るのです。その「づるづる」としたサウンドがこだまするのもこのお店の特徴であります。食後にとろとろの蕎麦湯まで飲めば、もう晩飯いらずの満腹感に浸れます。皆様もご賞味あれ。

岩手江古田会長・鈴木勝博（昭58・文芸卒）記

* 令和3年度岩手江古田会総会は実施の予定です。

さくら咲く金沢を満喫！ ～江古田会メンバーがすすめる 新名所をめぐる旅～ 国立工芸館

2020年10月25日に金沢市に移転オープンされた、国立工芸館。東京千代田区にある「東京国立近代美術館工芸館」の美術工芸作品の約70%が金沢に移転されています。工芸館の所蔵品も魅力的ですが、建物もまた貴重なもの！明治後期に建造され、国の登録有形文化財に登録された「旧陸軍第九師団司令部庁舎」（写真左側）と「旧陸軍金沢偕行社」（陸軍将校の社交場。写真



右側）という建物が、中央部分に設けられたガラス張りの正面玄関で接続され、並んで建っています。

それぞれ、間取りを復元したり、窓枠の色を当時の色に塗り直したりなど、改修された姿を見ることができます。お越しの際には、歴史ある建物もじっくりご覧ください。

当支部メンバーが訪れた際に開催されていたのは、「うちに こんなの あったら 展」。石川移転開館記念展Ⅱとして、コレクションから厳選されたデザイン・工芸作品が展示されていました。格調高く、華やかな美術工芸作品も素敵ですが、素朴な趣ながら丁寧に作られた作品も価値のあるもの。床の間などに飾って鑑賞するのも良いですが、工芸品は日々の暮らしのなかで手に取り、使ってこそ人の手や家になじんでゆき、愛着がわくのかもと感じました。

金沢城 鼠多門・鼠多門橋

金沢城公園の新名所として、2020年7月、鼠多門・鼠多門橋が完成しました！前田利



家・まつ像がある尾山神社と金沢城公園をつなぐ門と橋で、それぞれ明治時代に焼失・老朽化により撤去されていたものが復元されました。「海鼠壁」という鼠色の壁の目地が黒漆喰で仕上げられており、モダンな印象も受けます。

この門と橋ができたことにより、武家屋敷、尾山神社から本丸、兼六園、21世紀美術館や国立工芸館などの観光主要エリアを歩いて周遊することができ、大変便利になりました。

海天すし

県民御用達のすしチェーン店のひとつ。手ごろなお値段で、とても新鮮な魚介類が楽しめます。フォアグラ、能登牛、ふぐの白子など、高級な食材も豊富！県外からお越しの方は金沢駅から車で5分の場所に店舗がありますので、バスやタクシーでお越しください。

石川江古田会 会報編集部

新潟名所

「日本海に沈む夕日の風景」新潟駅から車で約15分くらいです。季節的には空気の澄んだ秋の夕陽が一番綺麗です。

夏は有名アーティスト出演の「夕日コンサート」が開催されます。また、芭蕉の「荒海や佐渡に横たう天の川」に代表される星空も素敵ですよ。

「長岡大花火大会」太平洋戦争の長岡空襲と中越大地震に捧げる鎮魂の花火大会です。毎年8月1日と2日に開催され、三尺玉も上がります。最近、音楽と花火が織りなす祭典として全国から大勢のお客さんが訪れます。

「春スキー」奥只見丸山スキー場が有名です。5月の連休も滑れますので、雪原でランチを楽しみながらスキーが出来ます。

「佐渡金山」世界遺産候補の名勝地です。新潟港からジェットフォイルで約一時間、佐渡島にある江戸時代の金山跡です。近くの川では砂金取りが体験できます。

新潟名物

「笹団子」食べた方も多いと思いますがヨモギの草餅の中に甘い餡子が入っています。

「のっぺ」新潟の海の幸山の幸がふんだんに入ったしょう油味の煮込みです。冬が一番美味しいですが料理屋さんでは年中食べられます。

「生寿司」佐渡近海で取れる美味しい鮮魚とコシヒカリがマリアージュした絶品です。

「新潟清酒」朝日山 メ張鶴 八海山 が最近の三横綱と評判です。

新潟名物は県内のどこでも当たり外れがなく楽しめますのでご賞味ください。



令和3年度の総会については今の所未定です。

今回の推薦については僕の個人的な好みで書きました。

他にも沢山楽しめますので、是非一度新潟を旅してください。

推薦者 増井伸一 写真学科 昭和48年度卒業

名古屋には何でもあるけど…何もない？

「名古屋に異動辞令が出たら、夫婦手を取り合って涙する」という都市伝説があります。そんなに魅力ない所でしょうか？

名古屋の放送会社に就職が決まり、私が来たのは50数年前。その頃は確かに「何でもあるけど何もない」感が漂っていました。徳川御三家筆頭の城下町として発展し、今や人口233万の都市。そんな町に興味ある食べ物やスポットがない訳ありません。今回は私の好きな散歩コースをご紹介します。

名古屋駅から地下鉄東山線に乗って東へ18分、東山公園駅と隣の星ヶ丘駅との間は緑豊かな丘陵地。住宅や学校が点在し、南側には駅と駅を結び形で東山動植物園があります。

公園駅を降りるとすぐ動物園。国内有数の広さの中で種類日本一の動物たちが迎えてくれます。是非会いたいのが知的？で



ハンサムと女性に大人気のイケメンゴリラ「シャバーニ」。写真集もあります。動物たちに癒されたあと東に進むと植物園に。森の中の植物を見ていると、四季折々いつ来ても心が安らぎます。

植物園側の門から星ヶ丘駅にかけてはゆるい下り坂となっており、両側にはおしゃれな店がいっぱい。駅周辺には二校の女子大があり登下校時、通りは華やかさに包まれます。

最後に立寄りたいのは駅上の三越。この街のランドマークです。



名古屋駅周辺には高層ビルが立ち並び、中心部栄のTV塔下は、樹木の繁る公園から最新の店が並ぶパークに変身しました。でも、何と言っても名古屋の真の魅力は交通アクセスの良さ。京都や飛騨、伊勢、信州などへは鉄道や車で簡単に行けます。東京大阪にも。道は広く、ほど良い規模で何でもある名古屋。転職が決まっても泣くことはありません。

毎年9月に開催される愛知江古田会はご多聞に漏れず昨年は中止。今年もどうするか未定です。藤田会長は全国の会長の中で最も若く、その分働き盛りで超多忙。「先輩。校友会誌の原稿、お願いします」と言われれば毎日サンデーの私は断れません。

名古屋市民は65歳になるとわずかな負担金で市内の全鉄道と市バスが無料。今回取材費は動植物園敬老入園料100円のみ。やっぱり住むには名古屋は…最高で～す。

愛知江古田会幹事 村井秀樹（放送 S41・1966年度卒）

台湾江古田総会レポート

2020年11月21日、台湾江古田総会は台北市内のリビエラホテルで開催。参加人数は計25名。当日はオンライン対談で、写真学科の原直久先生、高橋則英副会長、放送学科の川崎真澄さんも参加しました。今年度の会務内容もみんなに説明しました。幸い台湾は防疫対策が成功し、感染者はそんなに出ていません。



淡水-魅力的な街

淡水は台北盆地の西北部に位置し、山（大屯山）と河（淡水河）に囲まれているため、優雅な景色が見られる、歴史的観光資源と人文資源を多く持つ街です。昔は「滬尾」と呼ばれ、ケタガラン語で河口という意味でした。

淡水老街は、馬偕氏の石像がある公園や「福佑宮」、「龍山寺」、「祖師廟」など百年以上の歴史を持つお寺と、淡水礼拝堂などの古跡も見られます。現在淡水で古跡として保存されている建物は30軒余りあります。

「三協成餅舖」は淡水の創業85年の老舗菓子店です。三協成という名の由来は、創業メンバーである三人兄弟が力を合わせて、店の経営を成し遂げたいと願いを込めて名付けたもの。

「魚丸（魚つみれ）、阿給（あげ）、鉄卵（ウズラや鶏の玉子の醤油漬け）」、この三つのB級グルメは淡水に来たら、食べないと帰れないと言われている、淡水のソウルフード代表です。

淡水駅近くの路地裏にある「京華牛肉麵」のあっさりスープ清燉牛肉麵と四川激辛風味の紅焼牛肉麵もかなりおすすめです。

漁人埠頭の「阿基師觀海茶樓」は高級食材を使った広東料理と素敵に360度パノラマビューの海景色を堪能できます。

夕暮れ時に来れば、淡水金色水岸を散歩しながら海に沈む夕日を眺めて楽しむ事もできます。今度台湾に旅行に来るチャンスがあれば、是非、淡水に遊びに来てください。



漁人碼頭



阿基師茶樓

会長 林舜龍（1987年3月卒業）

「一度は食べてほしい！ 信州ラーメン」

信州名物というと、信州蕎麦を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、実は信州はラーメンの激戦区です。

長野県の山間地では、古くから「小麦」の栽培が盛んで、小麦で作る郷土食が多く、「うどん」や「おやき」などがその代表格です。「おやき」は地域によって調理方法が異なるほか、季節によって中に入る具も様々で、いろいろな味が楽しめることもあり長野を代表する郷土食となっています。

古くからの小麦の文化も相まって、長野県はラーメン店が多く、県内にあるそば店が約1200店であるのに対し、ラーメン店は約1000店と言われているそうです。また、「熊本ラーメン＝豚骨」や「札幌ラーメン＝味噌」のように、「信州ラーメン」と特徴付けて定義できるものがあるわけではなく、店主独自のオリジナリティあふれるラーメンが楽しめることも一つの特徴と言われてきました。そんな中で、近年、長野県のご当地ラーメンとして取り上げられることが多くなってきたのが「王様中華そば」(写真)です。これは長野県内にあるラーメン店の若き経営者たちが、惜しまれながらも閉店した老舗ラーメン店の中華そばを復活させたものです。具材はざく切りのネギ・のり・チャーシュー・メンマを使う。たっぷりのコショウを入れる。鶏ガラの澄んだスープにする。などの定義があり、それに則って各店が個性あふれる王様中華そばを提供しています。その若い経営者が先輩職人にリスペクトし、この「王様中華そば」を通して心一つになっていることも特筆すべき点でしょう。そして、いまの信州ラーメン界を支える店主たちは、みんな努力家で、発明家で、いい人だということ。私は、長年信州ラーメン番組の撮影と編集に携わっていますが、店主たちと話をしていると信州人の持つ「おもてなし精神」を感じずにはられません。

是非、みなさんも信州に来たら、蕎麦だけでなく「ラーメン」をお試ください。きっと気に入っていただけると思います。

長野江古田会 副会長 写真学科卒 江守健治



秋田の紹介を、事務局の独断と偏見で行いたいと思います。秋田といえば日本一が多くあります、脳卒中罹患率、ガン死亡率、自殺率など大変不名誉な記録という印象の他、小中学生の学力トップクラス、持ち家率一位等。

秋田の自慢

秋田の良いところと聞かれれば、一口で言って風光明媚な観光地が有り、秘湯と言われる温泉が多く、日本酒が美味しい。まさに飲み助には最高のところだと思います。

観光地といえば湖沼美の十和田湖や日本一深い田沢湖。

温泉といえばお医者様から余命数ヶ月と言われた人が玉川温泉のオンドル（地熱を利用した温泉で地面に敷物をしいて横になる）で、その後何年も生きてガン細胞がいつの間にか無くなっている。という実話がある温泉。

その他にも乳頭（にゅうとう）温泉と言って、一つの温泉施設に乳白色やエメラルドグリーン等の二つ以上の源泉がある温泉など。

そのほかには2018年にユネスコ無形文化遺産「来訪神（らいほうしん）仮面・仮想の神々」への登録が決まった「なまはげ」があります。これは私の住んでいる男鹿半島に伝わる行事で、毎年大晦日の夜になまはげが家々に入りその年の禍を祓い、良い年を迎えるように四股を踏んで回るといふ行事です。

又、秋田の名物料理といえば「きりたんぼ」。以前、秋田江古田会を会員のお店である割烹「濱乃家」で開催したとき、木村学部長、田上校友会会長が舌づつみを打っておられました。

風光明媚で温泉に入り名物料理を食べて美味しいお酒を飲む。まさに最高の時を過ごせる地です。

どうぞ一度足をお運びください。



男鹿のなまはげ



きりたんぼの材料

「ねぶたは青森のお守りです」

2020年は全国各地で夏祭りの開催が見送られました。青森ねぶた祭りも同様です。東京オリンピックの延期が決まった時点で諦めムードが漂っていました。ねぶた制作者である現役ねぶた師14人は、戦後初めての中止に「頭が真っ白になった、何も手につかない」とショックを隠せませんでした。中止はそのまま彼らの収入が途絶えることを意味します。

多くの代替イベントがあった中で、特筆すべきは、観光コンベンション協会が立ち上げたクラウドファンディングによる「夢のねぶた」制作の企画です。現役ねぶた師全員で一台のねぶたを作るという、前代未聞の、天地がひっくり返ってもあり得なかった企画でした。

題材は、「願いの灯（ひ）／薬師如来・玄奘三蔵と十二神将」。ねぶたの中心部分に名人ふたりによる二作品を背中合わせに配置し、その周囲に十二人のねぶた師によるそれぞれの十二神将がぐるりと守護する構図の、後ろも前もないねぶたです。

このねぶたは昨年末に完成し、JR青森駅にある青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」で、点灯式が行われました。ねぶた名人の一人は「絶対できないと思っていたが、みんなの心がひとつになった」と話し、灯りが入ったまさに世紀の一瞬、照り返しに浮かぶ現場に居合わせたほとんどのねぶた師さんの目が潤んでいました。

さて。地方局のとある番組で、小学生の女の子が「ねぶたは青森のお守りです」と話していました。唯一の女性ねぶた師の北村麻子さんは「私にはふるさとがふたつある、生まれた土地とねぶたです」と話します。祭りが中止になっても、ねぶた愛はとどまりません。

そしてここに、また新たな伝説が生まれました。

現在、合同ねぶたはワ・ラッセに展示中で、8月には青森ねぶた祭りでの運行が予定されています。ぜひとも、青森の奇跡を目の前でご覧下さい。

伊藤一郎（文芸・S52・1977年度卒）

ねぶた師14人による合作

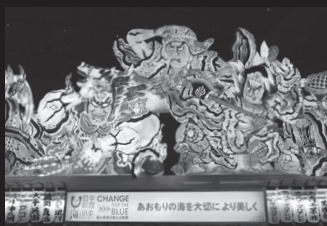
「願いの灯」

ねぶたの家ワ・ラッセ

電話017-752-1311

写真提供 青森ケーブル

テレビ



第15回日藝賞決定

2021年の日藝賞は俳優の黒島結菜氏です。

日藝賞および日藝アンバサダーとして、日藝の広報活動にご協力いただきます。



黒島結菜 プロフィール

1997年3月15日生まれ、沖縄県出身。
2015年写真学科入学。

〈映画〉『カッペン!』 周防正行監督 (2019)、『十二人の死にたい子どもたち』 堤幸彦監督 (2019) 〈ドラマ〉Eテレ『ハルカの光』 (2021)、NH『悲熊』 (2020)、NHKよるドラ『闇魔堂沙羅の推理奇譚』 (2020)、Netflix『呪怨：呪いの家』 三宅唱監督 (2020)、テレビ東京ドラマBiz『行列の女神～らーめん才遊記～』 (2020)、NHK連続テレビ小説『スカーレット』 (2020)、NHK大河ドラマ『いだてん～東京オリムピック噺～』、NHK『アシガール』 (2017) 〈舞台〉『ラヴ・レターズ』 新国立劇場 (2019)、『少女ミウ』 ザ・スズナリ (2017)、『虹とマーブル』 世田谷パブリックシアター (2015) 〈広告〉SUNTORY黒島龍茶「糖避けて、脂避けない」 (2020)、みずほフィナンシャルグループ (2014～2020)、京急急行電鉄KEIKYU for YOU「三浦半島for YOU 冬春篇」 (2020)・「三浦半島for YOU篇」 (2019)、池袋PARCO50周年イメージガール (2019)、JR東日本東京ステーションシティ「START with YOU」 (2018) 〈受賞〉第43回日本アカデミー賞新人俳優賞 (2020) など。

2022年NHK連続テレビ小説『ちむど んどん』のヒロイン役が決定。存在感と際だった演技力で、いま最も注目される俳優のひとりである。

松本徳雄 (写真)

大学入学を決めたのが25歳。フリーターをしていた私にとって、就職を目指して人生の再出発でした。周りより7つ年上の私は、仲良くなれるのか不安で一杯。しかし良い仲間に出会い、気がついたら大学生活を心から楽しんでいました。もちろん学業が最優先。成績など順位がつくものは全て一番になるつもりで頑張りました。おかげで特待生に選んでいただき、学費を捻出してくれた両親の負担を減らすことができました。親不孝な私を大学に通わせてくれた両親には感謝しかありません。ありがとう。

この4年間は写真のある環境にどっぷりと浸かりました。嬉しかったことも、厳しい講評を受けて落ち込んだこともありました。しかしその全てが、成長した今の私の一部となっています。

4月からは社会人。コロナ禍での就職活動はとても大変でしたが、第一志望の企業から内定をいただき、満足のいく結果で大学生活を終えられました。これからも頑張ります。



北村瑛芽 (美術)

小さい頃から習い事や家で様々な芸術に触れてきて、大学でも芸術を学びたいと思い、日芸への進学を決めました。彫刻コースへの入学後はほとんどが実習の毎日で、休暇中は大地の芸術祭や雪まつりに参加させて頂き、広く深く彫刻というものに触れ、存分に学び続けることのできたあつという間の4年間でした。卒業後、私は大学院へ進学します。大学2年生の実材実習で「鉄を折ってみたい」という好奇心から始まり、鉄を折り紙のように折る作品を造り始めました。学び進めていく中で大学4年生で感情というものに興味を持つようになり、鉄を折って感情を表現することをしていきます。先生方や家族のおかげでこの4年間で自分のやりたいを見つけることができました。これからも学部で見つけた自分のやりたいをとことん制作にぶつけていこうと思っています。

4年間、ありがとうございました。そして、大学院でもよろしくお願い致します。



中西日知 (映画)

当初は純粋に「映像クリエイターになりたい」という一心から本学科に入学しました。入学してからの二年間は、編集のアルバイトをしながら、映像表現・理論コースの多忙な課題をなんとかこなしていたことをよく覚えています。なので、大学は自分の発想の引き出しを広げる場所、バイトはスキルを磨く場所、という印象でした。

三年生になると研究制作のカリキュラムがあり、そこで初めてインタラクショナルデザインに出会いました。それは今までの映像創作とは一転し、プログラミングを学ぶ必要があったので、一日一作品コーディングで映像を作る生活をしていました。現在は、CGやARといったデジタル技術も作品によって取り入れています。

来年度はインタラクショナルの知識をさらに深めるために、他大学の大学院に進学する予定です。アートというよりはサイエンスの領域ですが、分野を横断した先に新しい創造性があると思うので、これまでの経験を糧に研究に励みたいと思います。



江原優月 (音楽)

「どこに進学するかが重要じゃない、入学後そこで自分が何をすることが大切なんだ」

音楽高校に通っていた当時3年生の私は職員室でそう言い、日芸への進学を決めました。

基礎、ホップ、ステップ、ジャンプの4年間にしようと心に決め日芸の門をくぐり、刺激だらけの3年間を送りました。専攻楽器のクラリネットのレッスンははじめとする多くの実技系授業、様々な価値観を持つ大好きな同期との会話。今の自分を形成している全ての要素が大学生活にちりばめられていましたが、そんな生活は一転、最後の1年はコロナ禍により溺れてしまいそうな毎日でした。芸術は不要不急という言葉が叫ばれ、音楽は真っ先に切られる。虚無感に苛まれながらももがき続けた結果、卒業試験では有難い評価を多く頂くことができました。

私にとって音楽は、自分を表現することができる唯一の手段です。

音楽の素晴らしさを一生届けるべく、4月からは陸上自衛隊音楽隊員として邁進します。



岩城喜大 (文芸)

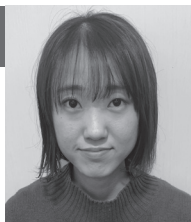


『卒業を期に名前を捨てることが許された世界での、卒業生の言葉』

大学卒業を期に名前を捨てることが出来る法律が今年から施行しますが、これを書いている三月一日現在、僕はまだ、これまで通り本名とともに生きていくか、「名無し」として生きていくかを決められずにいます。心残りがあるからです。僕は四年間ずっと、一人の女の子に片思いしていました。彼女とはたまに大学の喫煙所で話だけの仲で、お互いに名前も連絡先も知りません。いつか思いを伝えようと思いつつ、気付けば卒業式を残すのみになりました。僕の心残りとは、彼女に一度も自分の名前を呼んでももらえなかったことです。卒業式の日、もしもう一度喫煙所で会えたら彼女に告白し、名前を呼んでもらうつもりです。そうしたら心置きなく「名無し」として生きていけると思います。

校友会報の発行は五月だと聞いています。この文章が「名無し」で掲載されることを祈っています。

渡辺栞菜 (演劇)



私は大学4年間で主に舞台演出を学んできました。1年生の時「小手先の技術だけじゃやっていけないよ」と先生に言われ、今までの自分の浅はかな思考や上辺だけの生き方に嫌気が差しました。今思うと、その言葉が自分の中で原動力となったように感じます。

演出とはとにかくよく見て、よく聞いて、よく考えること、その“深さ”が求められます。演出を学んでいくことは、結果的に演出家になるためではなく、自分自身を作り上げ、社会の中での自分の立ち位置を模索することに繋がりました。

これからは自身で感じたことを元に、アートによって与える人への影響について研究していきたいと思っています。アートを通じてしか共有できないものや、それを支えていけるような場を考え、これからも創作や研究を続けていきます。

大学4年間で、どんな私も肯定し続けてくれた親や先生、周りの人たちに恥じぬような生き方が出来るよう精進して参ります。

本吉佑香 (放送)



「物語に関わりたい」

私は幼い時から、この軸を元を選択してきました。

編集者になりたいと思っていた幼少期でしたが、カナダにホームステイした時に外国の人々が日本のドラマを観ており、言葉が通じない人に対しても確かに変わらない映像の力に感動しました。

自分も心を動かす物語を映像で作りたい！と日芸の門を叩きました。

日芸は他学科も含めて、想像以上に何かしらの『オタク』が様々に集まっている場所でした。

才能に溢れていて、私なんて立ち向かえないんじゃないかと思う友人も沢山いて、絶望した事が何度もありました。

それでも、私は日芸に入ったことで物作りの楽しさと苦しさを学べたと思っています。

これから生きていくうえで、この経験と日芸で出会えた素晴らしい友人はかけがえのない財産です。

これからテレビ業界で働いていくうえで、先輩方の背中を追いかけて、なにより「物語に関わってよかった」と思える人生を歩めたら良いなと思っています。

長谷川沙恵 (デザイン)



日芸のデザイン学科の広く学べる所に惹かれ、大学では多くの事を吸収しよう決めていました。惜しみなくデザインに関する知識を教えて下さる先生方、刺激を与えてくれる仲間がいる中で制作していると、自分のデザインに対する考えやこだわりの浅さを思い知ることが沢山ありました。それでも、より深掘りできるようになりたい！と仲間の背中を追いかけてきました。そうして自分なりに必死に走ってこれたのは、やはり日芸での日々の学びが楽しかったからだと思います。卒業制作では、ゼミの先生に沢山お世話になりながら、本当にやってみたいテーマで制作でき、4年間の様々な授業で吸収してきたものを出し切ることができました。

そんな充実した学生生活を支えて下さった先生方、助手さん方、仲間たちに感謝しています。

これからは「日芸産」のデザイナーとして人に喜んでもらえるよう、味のあるデザインを作り続けていきたいです。



写真学科

■令和2年度をもちましてご退職された先生方

大学の規定による定年のため、大学院を小泉定弘先生（S41年度卒）、学部を松田義弘先生（S43年度卒）、原直久先生（S43年度卒）、和田光弘先生（S43年度卒）、三好耕三先生（S45年度卒）、甲田謙一先生（S46年度卒）、南岡秀男先生（S46年度卒）、豊田堅二先生が令和2年度をもってご退職されました。長い間ご尽力いただきありがとうございました。

■在学生による写真展「GRIP2020」開催

春に予定していた「GRIP2020 日本大学芸術学部写真学科学生選抜作品展」をポートレートギャラリーで2021年1月14日～1月20日に開催することができました。出品者は学内の公募により選ばれた4年生の橋本理生、松本徳雄、3年生の多田美久璃、吉瀬大樹、川端尋人、2年の横田航洋、村松省音の7人です。コロナ禍で、来場者も例年よりは少なかったのは残念でしたが、この状況でも写真展を開催できたことはありがたいことでした。一般の方に写真を見ていただける機会は学生にとっては貴重であり、今後の糧になることを願っています。

「GRIP2021」は、9月30日～10月6日にポートレートギャラリーで開催する予定です。卒業生の皆様にもご来場いただき、学生にお声がけいただければと思います。



GRIP2020 DM SKYⅢ会場

■日本大学芸術学部写真学科教員作品展「SKYⅢ」開催

12月4日～12月10日にソニーイメージングギャラリー銀座で「SKYⅢ」を開催しました。出品者は浅井譲先生、田中里実先生、服部一人先生です。浅井先生はデジタルによるカラー作品で、欧米および日本で撮影された旅のスナップでした。田中先生は、レイコック村の風景でタルボットへのオマージュとして塩化銀紙にプリントされました。服部先生は銀塩カラーによるキューバの作品でした。コロナ禍で自粛の日々、少しでも旅の気分を感じていただければという思いの写真展でした。

■日本大学芸術学部写真学科卒業生の会「新写真派協会」

新写真派協会のホームページでは随時、最新情報および卒業生の写真展案内などをご紹介しています。

ぜひご覧ください。

<http://shinshashinha.com>



映画学科

■令和2年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・研究・制作に授与されました。

☆第48回渡辺俊平記念賞（映像表現・理論）萩野あずみ

☆第23回筈見有弘賞（映像表現・理論）大濱 衣

☆第14回大竹徹賞（映像表現・理論）田村星潤

☆第15回八木信忠賞（録音）西田康佑

☆第45回映画学科奨励賞（映像表現・理論）渡部菜南、内田寛崇、佐々木亮、（監督）近藤将太、（撮影）遠藤 匠、（録音）山田 廉、（演技）松本倅大

☆第30回映画学科選奨（映像表現・理論）中田円凜、長峯英里、鈴木梨央、（監督）福井優太、（撮影）助川澄海令、（録音）宅間千穂、（演技）小笠原来由

☆第28回映画学科特別賞（伊藤忠ケーブルシステム株式会社提供）（映像表現・理論）田迎生成、田口天来、須賀彩夏、（監督）内藤 瑠、（撮影）井上温日、（録音）杉浦宏樹、（演技）深谷侑未

☆第18回アトライティング賞（東芝ライテック提供）（撮影）山路貴子〔照明にたいして〕

☆第20回映画学科コダック賞（コダックジャパン提供）（監督）山浦一晟、田中祥利、（撮影）小林明音、吉田美羽、（録音）新谷百香、萩原彩音、（演技）井上 剛、黒木歩夢

☆第6回三善賞〔（株）三善提供〕（演技）早乙女由羽

■令和2年度をもちまして、次の先生方が映画学科を退職されます。映画学科発展にご尽力いただきありがとうございました。（敬称略）

- ・学部：田島良一、宮崎正晃、宮沢誠一、相内啓司、井上眞介、太田吉治、川上皓市、志賀賢子、鈴木昭（花柳貴答）、鈴木美康、千葉実、津堅信之、野崎透、橋本勝次、山田均、山口豊寧、和田光信
- ・大学院映像芸術専攻・映画分野：阪本善尚、田島良一、仲倉重郎、橋本勝次、宮崎正晃、山田顕喜、

■令和3年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。（敬称略）

- ・学部：庭山貴裕（映画と諸芸術）、小林喬（映画技術・録音）、富田和彦（映画技術・録音）、竹下恭平（洋舞）、花柳寿々彦（日舞）、栗田由香（洋舞 令和2年度途中より）
- ・大学院映像芸術専攻・映画分野：眞道正樹（映像音響特論）、近森眞史（映像表現研究Ⅱ）、手塚昌明（映像構成特論）、山田均（映画特殊研究Ⅱ）



美 術 学 科

令和3年4月以降の美術学科専任教員の展覧会情報をお知らせします。

福島唯史 教授

□「色彩は夢をみる」展 5月10日(月)～5月18日(火) 銀座、ギャラリーゴトウ □「第58回太陽展」5月26日(水)～6月8日(火) 銀座、日動画廊 □「現代のパステル画展」7月24日(土)～9月26日(日) 笠間日動美術館

瀬島匠 教授

□「十果会」7月上旬予定 日本橋高島屋 □「第88回独立展」10月13日(水)～25日(月) 国立新美術館

坪井麻衣子 准教授

□「ペーパーワークの魅力」4月1日(木)～10日(土) 銀座、ギャルリ・サロンドエス(大庭英治元教授も) □「坪井麻衣子個展」9月10日(金)～20日(月) 新潟、楓画廊

山崎櫻子 美術学科職員

□「第95回国展」4月28日(水)～5月10日(月) 国立新美術館

笹井祐子 教授

□《表層の冒険-抽象のパロキスム》展 3月15日(月)～3月28日(日) 学校法人片柳学園ギャラリー鴻 □「一花ひらくー8人の作家による作品展」3月19日(金)～31日(水) ATELIER K ART SPACE □「7th INTERNATIONAL ARTISTIC FORUM "On paper without borders..."」2021年5月9日(日)～ The Cultures Meeting Center in Lublin, Poland ポーランド

□「笹井祐子 個展」9月15日(水)～9月26日(日) ATELIER・K ART SPACE

大槻孝之 教授

□「大槻孝之展」9月頃ギャラリーせいほう

鞍掛純一 教授

□「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」7月下旬～9月中旬頃 新潟県十日町市

飯田竜太 准教授

□「第八次 椿会展」6月～(予定) 資生堂アートギャラリー 第8次椿回到選。

柴田直起 彫刻コース助手

□「いりやKOUBO準大賞展」8月23日(月)～8月29日(日) いりや画廊



音 楽 学 科

●令和2年度卒業論文要旨発表会

2021年3月14日(日)～21日(日) 卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表の動画を公開致しました。

〈理論コース〉菅野龍哉〈音楽教育コース〉井上美暁、磯崎力福、小宮麗音、牛尾帆乃香〈情報音楽コース〉小尾碧

●令和2年度卒業演奏会

2021年3月15日(月) 練馬文化センター・小ホールに於いて、卒業演奏及び卒業作品が優秀であった学生の出演する卒業演奏会が開催されました。

〈作曲コース〉根岸宏輔(作品発表)〈声楽コース〉青木のり子(ソプラノ)、増子菜月(ソプラノ)〈ピアノコース〉岡本瑞希、建石美羽〈弦管打楽コース〉江原優月(クラリネット)、瀧澤亮太(サクソフォーン)、栗原優風(オーボエ)、家中紫音(マリンバ)、大津日菜子(フルート)、徳永愛里香(フルート)、飯間惟加(フルート)

●日本ピアノ調律師協会主催 第22回新人演奏会

2021年5月8日(土) 東京文化会館・小ホール
ピアノ独奏 建石美羽

●ヤマハ管楽器新人演奏会

2021年6月17日(木) ヤマハホール
第25回木管楽器部門 オーボエ独奏 栗原優風
2021年6月18日(金) ヤマハホール
第37回金管部門 テューバ独奏 亀川太一

●第48回フルートデビューリサイタル2021

日時未定 東京オペラシティ・リサイタルホール
フルート独奏 福角陸

●令和2年度で退職なさった先生は次の通りです。

峰村澄子、上原興隆、澤崎真彦、岩波孝昌、小林隆一、高仲広、茂木一衛、茂手木潔子、早稲田みな子、加藤美知子、高橋和江、長谷川裕美子、松井保雄、山口慶子、山下晃弘、古澤泉、横内園子、白井隆子、國越純子、本田聖嗣、森久保真佐子、板倉駿夫、稲川榮一、井上淑子、生沼誠司、高木綾子、加藤明、四戸世紀、菅原淳、新田幹男、松村エリナ(敬称略)

●今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

長岡英、原田愛、安藤珠希、鶴岡陽子、南田勝也、彌勒忠史、鷲尾麻衣、神田寛明、古賀慎治、佐藤潔、澤村康恵、辻功、二ツ木千由紀、若旅菜穂子(敬称略)



文 芸 学 科

■文芸学科卒の中島リュウさんがオーバーラップ文庫大賞銀賞作「Re:RE-リ：アールイー 転生者を殺す者」でデビュー

第7回オーバーラップ文庫大賞銀賞を獲得した、2015年度文芸学科卒、2017年度大学院博士前期課程文芸学専攻卒の中島リュウさんの作品「Re:RE-リ：アールイー 転生者を殺す者」が1月25日、発刊されました。

下記URLにて特設サイトが公開されています。

<https://over-lap.co.jp/bunko/bunkotaisho7/rere/>

■文芸学科1年生の塩崎達也さんが「第十回百年俳句賞」にて優秀賞を受賞

塩崎達也さん（文芸学科1年）が、句集「晴れきつて」で、「第十回百年俳句賞」（マルコボ、コム主催）優秀賞を受賞しました。受賞作等、詳細は下記サイトからご覧いただけます。

【百年俳句賞】

<https://www.marukobo.com/50ku/>

■文芸学科4年生の森瑞貴さんが「#こんな学校あったらいいな」にて編集部賞を受賞

森瑞貴さん（文芸学科4年生、ペンネーム:東雲）が、「#こんな学校あったらいいな」（ポプラ社主催）にて応募総数3,364件の中から編集部賞を受賞しました。

受賞作等、詳細は下記サイトにてご覧いただけます。

【「#こんな学校あったらいいな」投稿コンテスト 審査結果】

<https://note.com/info/n/ned0e0882960e>

【受賞作】「だからキミと明日も、明後日も」（東雲）

<https://note.com/sinonomenote/n/n4f39bfdb0eb>

■2020年度のゼミ雑誌をオンライン公開しました

今年度は新型コロナウイルスの影響により、日芸祭をはじめ外部の方へゼミ雑誌をご覧いただける機会が失われてしまいました。そこで、文芸学科特設サイトにて、ゼミ雑誌の一部を公開することとなりました。下記URLのサイト内「お知らせ」より「2020年度のゼミ雑誌を公開しました」をご覧ください。

<http://www.nichigei-bungei.info>



演 劇 学 科

■学生の「今」を意識する

この1年で変化したのは環境と価値観だと言われます。どちらも個人で形成するのは難しいものです。私たちは様々な決断を迫られました。自分と他者との関係、自分と社会との関係、社会と劇場との関係、これらのことについて。

昨年度学生たちは繋がりを奪われました。授業中の触れ合い、学食での会話、放課後の親睦などです。繋がることで感性は触発され新たな芸術創造の推進力になります。芸術学部が、演劇学科が「繋がり」を学生から奪ってはならない、新しい「繋がり」を作らねばと思いますが、学生はもう見つけているかもしれません。芸術学部が、演劇学科がそれに気づいていないのかもしれない。若い力はいつも驚かせてくれます。

演劇学科は昨年70周年を迎え、今年芸術学部は100周年を迎えます。そのような節目の年に演劇学科に2名の助教が加わります。新たな若い力を加え、学生の「今」を意識して共に創造する演劇学科でありたいと思います。

新任 助教：舞台美術家 青木拓也



新任 助教：舞台照明家 南香織



主要創作作品

- ・柴幸男 作／演出
「わが星」
- ・イデビアンクルー
「麻痺 引き出し 嫉妬」
- ・白石加代子 中嶋朋子 出演
「おやすみ、かあさん」

主要創作作品

- ・ミクニヤナイハラプロジェクト
「前向き！タイモン」
- ・あやめ十八番
「ゲイシャパラソル」
- ・藤田貴大 作／演出
「CITY」

令和3年度前学期 演劇学科実習発表スケジュール

- ・総合実習ⅡB（3年洋舞）6月18日（金）～6月19日（土）
- ・総合実習ⅡA（3年演劇）7月8日（木）～7月10日（土）

江古田校舎北棟中ホールでの上演を予定（※上演形態、日程等 変更の可能性あり）

問い合わせ先：演劇学科事務室 03-5995-8260



放 送 学 科

■若松節朗さんが3度目の日本アカデミー賞優秀監督賞

放送学科卒業生の若松節朗さん（S43年度卒）が、昨年3月6日公開の映画『Fukushima 50』で第44回日本アカデミー賞優秀監督賞を獲得しました。

若松さんは、2001年公開『ホワイトアウト』で第24回日本アカデミー賞優秀監督賞、2010年公開『沈まぬ太陽』での第33回同賞に続き、今回が3度目の受賞となりました。

■退職者のお知らせ

2019年度から2020年度にかけ、放送学科で長年にわたり教鞭をとられた落合賢一先生と野田慶人先生が専任の定年を迎えられました。

落合先生は放送技術の分野を専門に技術実習をはじめ、「電気概論」など多くの講座をご担当され、学生の指導にあたっていただきました。また、先生にはスタジオ設備の発展にもご尽力いただき、時流に沿って学生の創作環境を整えていただきました。そして、野田先生はCM分野を専門にされ、2005年から2017年まで学部長を務められました。任期期間中は、学科の教育に加えて江古田校舎の整備事業や「日藝賞」の設立など学部の運営にもご尽力いただきました。お二人には放送学科の非常勤講師として、この4月から引き続き大学院の講座をご担当いただいています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

そして、技術員として長年にわたり、テレビ制作、映像技術など映像関連の実習を中心に多くの学生の指導にあっていた吉川元さんと山田勝範さんが2020年度に定年退職を迎えられました。実習や演習では照明とカメラ、それぞれの専門分野から学生に制作技術の手ほどきをしていただき、そこで知識と意欲を身につけた学生が社会へ巣立って行きました。学生の課外活動にまで目を配っていただいたので、お世話になった卒業生の方も多いかと思います。吉川さんと山田さん、本当にお疲れ様でした。これからもどうぞお元気でいらしてください。

■新任者のお知らせ

2021年度より新たに石毛みさこ先生を専任教員（助教）としてお迎えすることになりました。「放送作品研究IX、X」「メディア研究VII」などの講義科目を担当されます。

また、2020年度より技術センターに技術員として五十嵐智一さんをお迎えしています。研究事務課からの異動で、主に機材のメンテナンスやスタジオなどの運行业務を担当されています。



デ ザ イ ン 学 科

■フディエン지니어リング主催『キックボードデザインコンペ』にて横山翔一助手が大賞を受賞

フディエン지니어リングのキックボードデザインコンペにて、デザイン学科の横山翔一助手のデザイン「SAZANAMI」が大賞を受賞しました。キックボード新機種のデザインを一般公募したコンペで、横山さんは「誰でも気軽に乗れる」「穏やかで安心感のある細波をモチーフにする」というコンセプトを軸にデザインを展開されました。こちらは今後実際に商品化される予定です。乞うご期待ください！

■練馬光が丘病院移転・改築予定地工事フェンスに学生が応援アートをデザイン

練馬区光が丘病院移転・改築予定地（練馬区光が丘）の工事フェンスに、デザイン学科3年（当時）福田千尋（フクダ チヒロ）さんが医療従事者に向けた応援アートをデザインしました。現在、コロナ禍で日々奮闘している医療関係者へ感謝の気持ちを表すものとして制作したものです。ほのぼのしたタッチで医療従事者を勇気づけると評判になりました。

■ブルーリボン賞受賞式パネルを学生がデザイン

西武鉄道の新特急車両001系Laview・5000系レッドアローが「ブルーリボン賞」を受賞し、その受賞式が10月25日に西武球場駅にて開催されました。ブルーリボン賞記念ロゴは、Laviewのデザインをした建築家の妹島和世氏が手掛けたもの。そのロゴを使用し、受賞式で使用するバックパネルを本学デザイン学科3年（当時）古瀬愛さんがデザインし、受賞式を華やかに彩りました。

■千葉県富里市と包括提携を結ぶ日本大学芸術学部の学生がデザインしたポスターが完成

布目幹人専任講師とデザイン学科、写真学科の学生が制作した千葉県富里市が特産のニンジン（ニンジン）をPRするポスターが、JR横須賀・総武快速線、京葉線、内房線、外房線、京成電鉄全線などの中吊り広告として掲出されました。ずらりと並んだニンジンのヴィジュアルと「ニンジン嫌いな人を苦しめてごめんなさい。」のコピーが目を引くユニークなデザインとなりました。2月17日の朝日新聞ほか、2月22日の東京新聞など各種メディアでも紹介されました。

学部の優秀者

日本大学学長賞・優等賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表がありました。

- 日本大学学長賞（学業部門）
- 文芸学科 吉村 香織
- 日本大学芸術学部優等賞（学業部門）
- 写真学科 田原 敦、松本 徳雄
- 古川 小夏、田島加奈子
- 映画学科 長峯 英里、萩野あずみ
- 近藤 将太、須賀 彩夏
- 美術学科 菊地 春香、向井 葉月
- WU JUDY YU、有村 早織
- 音楽学科 根岸 宏輔、柳村 綾香
- 昆 美樹花、牛尾帆乃香
- 文芸学科 吉村 香織、茶谷 巧
- 磯貝 由羽、西村 美穂
- 演劇学科 竹田 百花、秋本 雪乃
- 中野 玲那、大川 文乃
- 放送学科 松本 有加、前田 知礼
- 浅野 莉子、山村 昌平
- デザイン学科 横山 菜奈、村上実紗子
- 樫村 透美、長谷川沙恵
- 芸術学部長賞（学業部門）
- 写真学科 養田 純奈、栗原 朗
- 田原 敦、森上 元貴
- 佐藤 大青
- 映画学科 小田理佐子、長井 遥香
- 辻 華琳、河村 優
- 松野友喜人
- 美術学科 岡本 彩椰、向井 葉月
- ZHANG SHUYANG、小原小百合

- KIM JEONGWOO
- 音楽学科 小尾 碧、増子 菜月
- 根岸 宏輔、江原 優月
- 建石 美羽
- 文芸学科 高井 理史、細田 麻友
- 舟橋 令偉、坂本理彩子
- 西村 美穂
- 演劇学科 川畑絵莉子、加藤 亜美
- 古川 雄大、中野 玲那
- 重森 葉月
- 放送学科 野原 花風、森井 麻衣
- 柳沢ひかる、浅野 莉子
- 谷本 紗耶
- デザイン学科 大森美菜乃、中根奈津美
- 長谷川沙恵、富田 美咲
- 平郡麻左人
- 芸術学部奨励賞
- 写真学科 利川 萌々
- 川村萌々香
- 美術学科 高中 知世
- 音楽学科 井上 美咲
- 文芸学科 夏井 一紗
- 演劇学科 飯田 有汰
- 放送学科 樋口 奈穂果
- デザイン学科 坂坂 風沙
- 金丸重嶺賞
- 写真学科 窪田 有希、樋口 諒平
- 濱原沙也佳、KIM ILGYUN

- 渡辺俊平記念賞
- 映画学科 萩野あずみ
- 呉正恭賞
- 放送学科 該当者なし
- 川野希典賞
- 演劇学科 栗田 琴弓
- 筈見有弘賞
- 映画学科 大瀧 衣
- 大竹徹賞
- 映画学科 田村 星潤
- 八木信忠賞
- 映画学科 西田 康佑
- <大学院>
- 日本大学芸術学部湯川制賞
- 文芸学 東野 太郎
- 映像芸術 菊地 美咲
- 造形芸術 任 慈
- 音楽芸術 植元 直美
- 舞台芸術 該当者なし
- 日本大学芸術学部澤本徳美賞
- 文芸学 遠山 寛明
- 映像芸術 黄 笑梅
- 造形芸術 黄 信滔
- 音楽芸術 竹内 京花
- 舞台芸術 竹田 朱里

日本大学芸術学部校友会各支部（江古田会）連絡表

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	連絡窓口	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送S52・1977年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇S32・1957年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽S54・1979年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇S53・1978年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送S55・1980年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術S52・1977年度卒	023-631-8040
ふくしま江古田会	吉田 公之	美術S39・1964年度卒	090-5845-1724
新潟江古田会	増井 伸一	写真S48・1973年度卒	025-233-3910
長野江古田会	三浦 博之	放送S49・1974年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇H9・1997年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽S50・1975年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸S53・1978年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真S44・1969年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画S40・1965年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真S43・1968年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真S52・1977年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送S49・1974年度卒	090-3739-7374
中国江古田会	馮 建国	院H9・1997年度卒	—
台湾江古田会	林 舜龍	美術S61・1986年度卒	—
韓国江古田会	イ サンユン	院H8・1996年度卒	—

information ■ 校友会からのお知らせ

校友会から芸術学部へ新型コロナウイルス感染症対策緊急支援

学部よりオンライン授業実施に係る学生へのネットワーク環境整備補助金の充当として500万円を寄付することが令和2年11月28日の総会にて承認され、令和2年12月17日に江古田校舎第1会議室にて田上会長から木村学部長へ目録が贈呈された。



訃報 秋田江古田会藤澤朗支部長1月12日にご逝去。美術学科常任幹事高松豊氏1月17日にご逝去。元校友会副会長・元芸術学部事務局長園田芳夫氏2月4日にご逝去。謹んで哀悼の意を表します。

ホームページリニューアル

2021年の5月より互いに発信できるサイトに生まれ変わります。是非ご活用ください。

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の発令で3月8日に公開延期された「シン・エヴァンゲリオン劇場版:||」は、僕は朝7時からの初回上映に駆け込みましたが、テレビ版からの25年という歳月を思うと、この作品に縛られ続けていたファンのみならず、作り手の庵野監督もこれで解放されたのだな、という感慨が去来して謎の涙でマスクが濡れました。作品というのは時に呪いの側面を見せるものです。(青木)

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 山本 英史、安部 裕、茅原 良平、長瀬 浩明、青木 敬士、千北 正
- 表紙写真 写真R2年度卒 樋口諒平『The Border』
- デザイン監修 平林 直人
- 印刷所 江戸クリエイート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

令和2年度(2020年度) 予算

収入之部		
勘定項目	摘要	金額(円)
本部よりの会費	準会員 4,000円×3,600人=1,440,000円 4正会員 3,000円×50人=150,000円	14,550,000
校友会終身登録費	5,000円×250人=1,250,000円	1,250,000
雑収入	百藝手拭い	50,000
広告費	校友会報 広告掲載	0
収入利息		5,000
合計		15,855,000
特別会計	前期繰越金	4,055,496
	定期預金切り崩し	10,000,000
		14,055,496
支出之部		
勘定項目	摘要	金額(円)
総会議費		50,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	40,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	10,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	50,000
通信費	会報発送(在校生・卒業生) 総会・会費請求切手 他	5,200,000
補助費	学科同窓会・幹事会・総会・日芸祭・卒業生を送る会 支部補助(20支部×5万円) 支部総会出席祝儀	1,200,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日本大学130周年記念事業募金 他	440,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	2,106,000
人件費	事務局員給料・アルバイト・人材派遣	4,320,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
旅費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	300,000
租税公課	利子税	1,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・キーホルダー	240,000
備品維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース (21,824円)	390,000
本部役員会費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交流費	新年会・他学部校友会交際(13学部総会祝儀×2万円)	0
業務委託費	中間・決算・期末決算	165,000
雑費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	250,000
支払手数料	銀行支払手数料など	28,000
奨学金	大学8学科・大学院6学科 1学科につき20万円	2,800,000
退職積立金	事務局員退職金(校友会内規第4章第19条)	300,000
減価償却費		
合計		18,760,000
特別会計	江古田通年化及び新棟建設に關した芸術学部への寄付 新型コロナウイルス感染症対策緊急支援	1,760,000 5,000,000
特別会計 合計		6,760,000

8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

日本大学芸術学部校友会報・第106号

2021年春季号 ●令和3年5月発行 ●

非売品

不許可転載

●発行所

日本大学芸術学部校友会
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部に
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

URL: <http://www.koyu.art.nihon-u.ac.jp>

メールアドレス: ekoda.koyu@gmail.com



8つのアート1つのハート

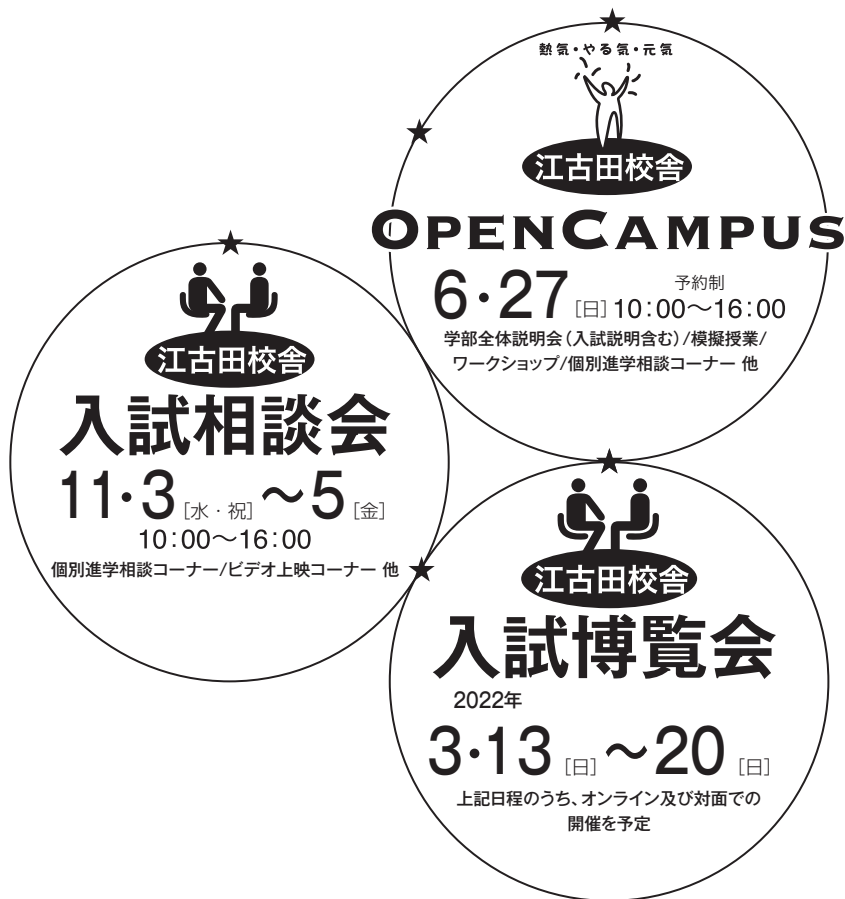
日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大 学 院 芸 術 学 研 究 科 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇博士後期課程／芸術専攻



8つのアート1つのハート

N U
Nihon University College of Art
A r t

日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1 TEL.03-5995-8282